

2018年7月実績概要(メモ)

(2018. 8. 23)

定修規模の縮小によりエチレンとともに多くの誘導品の生産が増産に転じる。

1. 生産動向

イ) エチレン 496,700トン

前月比 +21.4% (+87,700トン)

前年同月比 ▲3.0% (▲15,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	+ 23.6%	+ 0.6%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 5.5%	▲ 3.6%
生産増減率	+ 21.4%	▲ 3.0%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.7%→当月93.0%←前年同月96.1%

定修プラント：前月3社3プラント→当月3社3プラント←前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加と定修規模の縮小からLD、HD、PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目がプラス。SM、BRなどの3品目は定修規模差等からマイナスとなった。

前年比では、定修規模の差や稼働率要因からHD、PS、EO、BR、トルエンなどの8品目がプラス。PP、MMAモノマー、ベンゼン、キシレンなどの9品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、前月が定修の集中に伴い大きく減産となったが、当月は日数増と定修規模の縮小からLD、HD、PP、PSともに大幅な増産となった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、PSでプラス。PPは主に稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、営業日数の増加とともに定修に伴う供給側のネックも薄れたこともあり、LD、HDではプラス、PP、PSは微減となった。

前年比では、LDではほぼ前年並みの出荷となったほか、HDでは射出成形分野等の出荷増加からプラスとなった。これに対して、PPは生産の減少影響もあり、射出成形分野やフィルム分野をはじめとし総じて出荷が減少することとなった。PSでは包装分野、FS分野の前年の出荷が幾分、高めであったこともありマイナスとなった。

ハ) 輸 出

国内向けを中心とした出荷傾向に変わりなく、輸出量自体はポリオレフィンでは限定されたものとなっている。前月比では、LD、PPはマイナス、HD、PSはプラスとなった。

前年比では、LD、HD、PPともにマイナス、PSのみがプラスとなった。

ニ) 在 庫

在庫量は、LD、PPは減少し、HD、PSは増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、PPで低下、HD、PSは上昇した。在庫水準としては、LD、HD、PPはほぼ適正レベル、PSはやや高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LD	▲ 8,500	3.2	3.1
HD	+ 5,700	2.9	3.1
PP	▲ 15,900	3.0	2.9
PS	+ 8,300	1.6	1.7